

2 黒田家譜

江戸初期に、幕府は諸大名に家系図（家譜）を提出させました。

「家譜」は、ほとんどが創作で「うそ」といいいいほどです。

黒田家の家系図『黒田家譜』もその類かもしれません。

家譜を疑いながらも、官兵衛の祖先について少し「家譜」を参考にします。

NHKの大河ドラマも『黒田家譜』をベースとすると思われます。

『黒田家譜』は、官兵衛の祖先は、琵琶湖の東北の、現在の木之本町あたりであるとしています。

備前福岡から姫路へ

官兵衛の祖父の代に、何らかの理由で、岡山県（備前）福岡に移ったらしい。

備前福岡は、「一遍上人絵伝」でも、よく知られているように、商業の盛んな地域でした。

備前の福岡で黒田家は、仕事がうまく行かなかったのか、もうひと旗挙げようと考えたのか、祖父（重隆）の時代に姫路に出ました。

このあたりから黒田家は、歴史時代に入り、事実が先行します。その前にもう一つ黒田家の伝承らしき話を紹介しておきます。

目薬屋

官兵衛の祖父・重隆は、備前福岡から姫路へ出ました。

姫路地方では、信仰を集めていた神社があります。

姫路駅から北へ4 km、広峯山の中腹にある広峯神社です。

広峯神社には、「御師（おし）」がたくさんいました。

御師とは神主につかえる一種の布教者で、彼らはお札を各地に配り信仰を広めました。

ある時、「御師が配るお札に付けるお土産のようなものはないか」という話になり、重隆が「目薬はどうだろうか」と提案し、この目薬の案が採用されました。

この目薬を広峯神社の御師が、お札と一緒に各地に持ち歩きました。御師がセールス役をしてくれたのです。神社にも重隆にも相当な収益がありました。この目薬屋については、『黒田家譜』は何も語っていません。

*写真：目薬の木（姫路文学館の中庭で撮影）

